

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成29年度農作物病虫害発生予察情報について

平成29年度農作物病虫害発生予報第11号を公表したので送付します。

平成29年度農作物病虫害発生予報第11号

平成29年12月4日
徳島県

I. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が10.0%と, 平年(10.0%)並の発生であるが, 発病度は0.1と, 平年(1.0)に比べて低い。
- (2) 11月30日発表の1か月予報では, 気温は平年より低く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 平年同様に晴れの日が多いが, 期間の前半は, 気温がかなり低くなると予想されており, 発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので, 肥培管理に注意する。
- (2) 多湿環境は発病を著しく助長するので, 施設内が過湿にならないように十分換気を行う。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので, できるだけ早く摘み取って, ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので, 薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に, 下葉には丁寧に散布する。
- (5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので, 発生を認めたら散布間隔を短縮して, 集中的に薬剤散布を行う。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が80.0%, 寄生葉率が7.0%と, 平年(35.4%, 2.7%)に比べて高い。また, 種類別では, オンシツコナジラミの発生圃場率は30.0%, 1葉当たりの寄生虫数は0.0頭, タバココナジラミの発生圃場率は80.0%, 1葉当たりの寄生虫数は0.1頭である。
- (2) 11月30日発表の1か月予報では, 気温は平年より低く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 平年同様に晴れの日が多いが, 期間の前半は, 気温がかなり低くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (2) ネオニコチノイド系剤の一部(ジノテフラン以外の剤)、及び合成ピレスロイド系剤に対する感受性が低いことが報告されているバイオタイプQに対しては、クリアザールフロアブル(マルハナバチ影響日数：1日)、コルト顆粒水和剤(3～7日)、粘着くん液剤(0日)、オレート液剤(1日)等の剤が有効であるとされている。

冬春ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が28.6%と、平年(27.2%)並の発生であるが、発病葉率は3.4%と、平年(1.2%)に比べてやや高い。
- (2) 11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が28.6%、発病葉率が0.4%と、平年(31.0%、1.2%)並の発生である。
- (2) 11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (2) 発生が多くなると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬液は下葉の葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、寄生葉率が0.9%と、平年(2.4%、0.1%)に比べてやや高い。
- (2) 11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているの

で、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

タバココナジラミ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が71.4%、寄生葉率が3.9%と、平年(57.1%、3.1%)並の発生である。
- (2) 11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率7.1%、寄生葉率0.1%)。
- (2) 11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

ミナミキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が71.4%と、平年(73.1%)並の発生であるが、寄生葉率は3.0%と、平年(11.1%)に比べて低い。また、被害果率は0.7%と平年(1.1%)並の発生である。
- (2) 11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラナ科野菜共通

黒腐病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月前半のキャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が21.1%、発病度が1.8と、平年(32.5%、2.1)並の発生である。また、11月後半の巡回調査では、発生圃場率が36.8%、発病度が3.1であった。
- (2) 11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、発生抑制的な気象

条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。特に強風雨の後はできるだけ速やかに薬剤散布を行う。
- (2)害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も行う。
- (3)被害残渣は圃場外に持ち出し、適切に処分する。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)11月前半のハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(57.3%)並の発生であるが、寄生株率は3.2%と、平年(12.6%)に比べて低い。また、11月後半の巡回調査では、発生圃場率が36.4%、寄生株率が2.2%であった。
- (2)11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)11月前半のハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が22.7%、10株当たり寄生幼虫及び蛹数が0.2頭と、平年(20.7%、0.4頭)並の発生である。また、11月後半の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、10株当たり寄生幼虫及び蛹数が0.0頭であった。
- (2)11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。葉裏に生息しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ホウレンソウ

べと病

1)予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が0.9%、発病度が0.0)。
- (2)11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)県内では、べと病菌レース13による発病が確認されているので、レース13以上に抵抗性を持つ品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。
- (2)平均気温が8~18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期

- 防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるよう丁寧に散布する。
- (3)罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
 - (4)葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生圃場率が 8.3%, 1株当たり寄生虫数が 0.0頭で、平年(33.9%, 0.2頭)に比べてやや低い。
- (2)11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3)アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 8.0%, 発病葉率が 0.5%)。
- (2)11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3)古葉は早めに除去し、薬剤が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生圃場率が21.4%と、平年(28.1%)並の発生であるが、寄生株率は 7.7%と、平年(4.3%)に比べてやや高い。
- (2)11月30日発表の1か月予報では、気温は平年より低く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、気温がかなり低くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3)アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が 7.1%, 寄生葉率が 0.2%と, 平年(51.9%, 6.7%)に比べて低い。

(2) 11月30日発表の1か月予報では, 気温は平年より低く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 平年同様に晴れの日が多いが, 期間の前半は, 気温がかなり低くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。

(2) ハダニ類は葉裏に寄生しているので, 薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので, 同一系統薬剤の連用は避ける。

II. その他

- ハウスやトンネル等で密閉保温していると, 内部が多湿となり, 病害の発生に適した条件となるため, 晴天時の日中には換気を十分行うとともに, 夜間は暖房機の温度を高め設定して施設内の湿度低下を図ること。
- 薬剤の使用にあたっては, 必ず農薬ラベルの記載事項を遵守すること。

発生量の表示

発生程度 : 甚 > 多 > 中 > 少 > 無

発生量 : 多い > やや多い > 並 > やや少ない > 少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病虫害の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。